

現在、47都道府県に652の単位倫理法人会があり、その全ての会で早朝を利用しての「経営者モーニングセミナー」が開催されています。同セミナーでは、生活法則である「純粹倫理」を学び、実際に職場や家庭で実践をして結果を出している方々が多く現われ、嬉しい体験報告を聞くことがあります。

静岡県の沼津北倫理法人会幹事の安井信之氏（38歳）の体験を紹介します。安井氏は26歳の時に農業に従事することを決意し、主にトマトを栽培し現在12年が経過しました。

農園の名前は「声かけファーム」といい、トマトに声かけをする栽培方法からこの名前がつけました。メインとなる声かけは「ありがとう」「感謝してるよ」「ツイてる」「甘いね」「おいしいね」「良い香りだね」など、前向きでプラスの声かけです。すると皮はやわらかく、甘みがあり、さらには濃いトマトらしい味になるのです。

逆に「ばかやろう」「まずい」と怒りながら、マイナスの声かけをするとトマトの皮が硬くなり、酸っぱくなるのです。さらには栽培中、ブイツと顔を背け無視したトマトは、怒ったマイナスの声かけをしたトマトよりも味が劣るといいます。

さらに安井氏はモーニングセミナーで『万人幸福の栞』を読み、15条「信ずれば成り、憂えれば崩れる」に共感し、自分に対して「自分は出来る！」とプラスの声かけをしていったのです。そんな矢先、もっとお客様にうれしいトマトを食べてもらいたいと、ビニールハウスを増築する計画を打ち出します。しかし資金がありません。そんな中でも「自

## 自分自身の心が 商売繁盛に反映する



え・栗木 映

分は出来る！」と常に言い続けたのです。ある日ビニールハウス内で作業をしていたところ、「銀行の者です」と銀行員が訪ねて来ました。そこからトントン拍子で話が進み、銀行からの融資を受け、増築にこぎつけたのです。また、夫婦仲が悪い訳ではなかったのですが、夫婦の寝室を別々にしていました。ところが「企業経営には、まず家庭の安泰が不可欠である」と学び、さっそく寝室を同じにし、家庭愛の実践に磨きをかけていったのです。結果として、その年の収穫量が一・五倍に増える嬉しい体験も生まれました。私たちが学んでいるこの「純粹倫理」は、原理原則によつて成り立っており、その大本の原理が「全一統体」といいます。全ては目に見えない世界で一つにつながっており、自分の心を変えることによつて、人・物・自然環境が変化することを指します。倫理運動の創始者・丸山敏雄が記した、働く上での心の持ちようを最後に紹介します。

勤労の精神内容(使う時の心得、喜んでいくかどうか、進んでやっているか、興味をもち生産の向上を専心念じているかどうか)にかかっていたことが明らかにされて来た。(甲略)

農家に至っては、農業に従事する人たちの精神生活が、そのまま田畑の稲の麦の収穫にひびいてくる。従つて家の和合、夫婦親子の愛和が、直ちに作物の出来に反映してくる。商家においては、その売れ行きに、その他の職業についても、悉く(とことく)その繁昌如何に関係してくる。

(実験倫理学大系「151」~「152頁」)

自分自身の心を再確認し、真心のこもった仕事をしていきましょう。